

月次景況調査結果

令和7年12月期

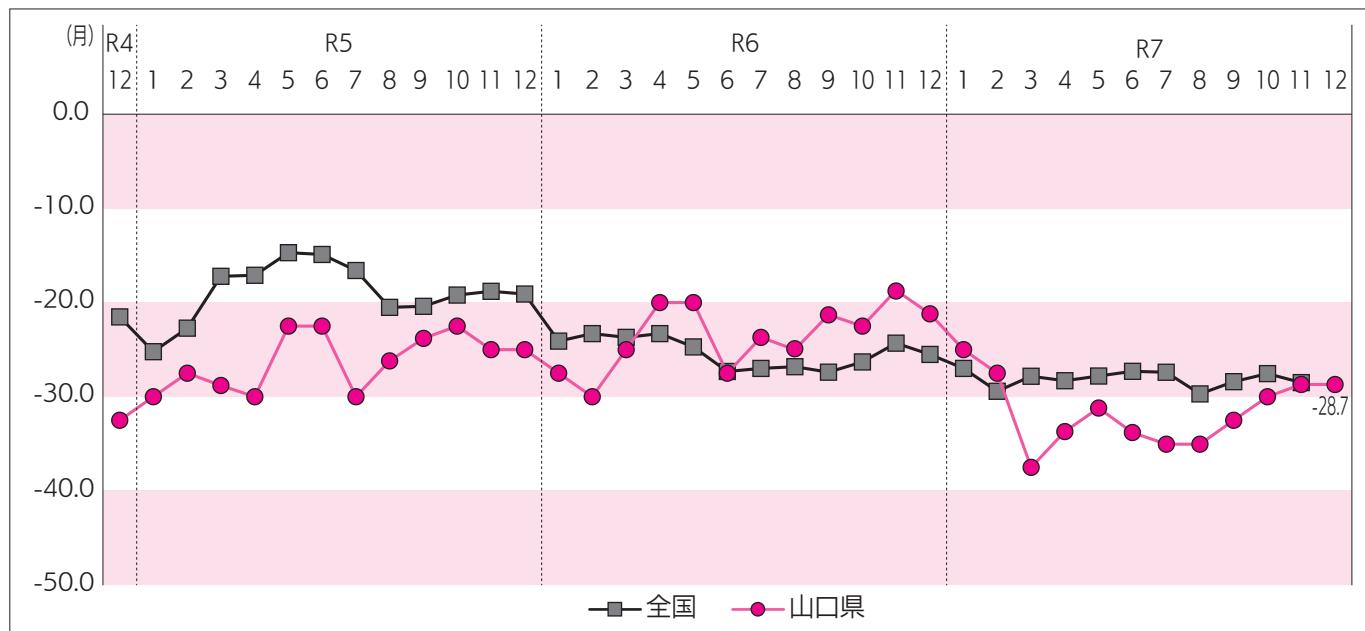


12月期の景況DI値は、運送業等時期的に需要が拡大した業種があった非製造業は改善した一方、受注が減少傾向にある業種が多く、加えて原材料価格の上昇が続く製造業は悪化し、全体として低い水準のまま横這いとなった。

製造業、非製造業ともに、物価上昇によるコスト増や価格転嫁の困難さと消費低迷、深刻な人手不足などを懸念し、先行きへの不安感を抱く報告が多く寄せられている。

業界の景況DI値の推移 —全国平均との比較—

※DI値(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標です。
DI値(前年同月比) = 増加・好転組合割合 - 悪化組合割合



項目別のDI値

項目	前年同月比		前月比
	R7.11月	R7.12月	
売上高	▲17.5	▲17.5	雨
在庫数量	▲6.0	2.0	云
販売価格	25.0	23.7	晴
取引条件	▲15.0	▲12.5	雨
収益状況	▲26.3	▲28.7	雨
資金繰り	▲15.0	▲13.7	雨
設備稼業度	▲18.7	▲18.7	雨
雇用人員	▲15.0	▲8.8	云
業界の景況	▲28.7	▲28.7	雨

DI値

30以上	晴	-30以上-10未満	雨
10以上30未満	云	-50以上-30未満	雨
-10以上10未満	云	-50未満	雨

業種別 業界の景況DI値

	業種	前年同月比	前月比
製業	食料品	▲50.0	雨
	織維工業	0.0	云
	木材・木製品	▲100.0	雨
	印刷	▲50.0	雨
	窯業・土石製品	▲50.0	雨
	一般機器	▲37.5	雨
	輸送機器	33.3	晴
非製造業	卸売業	▲20.0	雨
	小売業	▲28.6	雨
	商店街	▲50.0	雨
	サービス業	0.0	云
	建設業	▲27.3	雨
	運輸業	▲14.3	雨
	その他	▲100.0	雨

月次景況調査結果特記事項【令和7年12月期】
山口県中小企業団体中央会

大分類	具体的業種	地域	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
調味料製造業	県内全域		原材料価格の高騰が依然として続いている。来年以降の動向についても懸念している。
	宇部・山陽小野田		洋菓子店は、卵やチョコレートをはじめとする原材料価格の高騰により、厳しい状況にある。クリスマス時期の売上も低調に推移した。正月餅については価格転嫁が進んでいる。一方、土産菓子に関しては、今年度は正月休暇が長いことから、年末年始の需要拡大と売上増加に期待している。
	下関		円安が少しずつ回復傾向にあるものの、原料や水道光熱費の高騰、人件費（時給の最低賃金）の上がり幅が大きく、商品の値上げが追いつかない状況。商品の単価設定を見直す必要がある。12月は冬休みや年末年始、観光ツアーの影響で人流が活発化し、正月用商材や土産品を中心に売上は好調に推移した。ただ、昨年に比べると寒くなるのが遅く、ふぐ等の鍋物商品の動きは昨年より鈍くなっている。
食料品	精穀・製粉業	防府・山口	12月の売上については、全国的に慢性的な米不足が続き、農協の概算金が大幅に上昇したことによる、売上高の増加が見込める状況となった。ただ、高値が続いている新米の売れ行きが悪く、輸入米や古米の消費が拡大したため、業者や農協の倉庫に新米が積み重なるという悪循環となっている。このままの状態が続けば、来年度、お米の価格の急激な下落が予想されるので、食料安全保障という観点からすれば、需給調整のため、備蓄米を増やすという対策が必要となる。ロシアがウクライナに侵攻して3年以上経過しているが、戦局についてまったく変更されるような状況ではない。イスラエルによるテロ制圧など、中東情勢の悪化に伴う世界情勢が混沌として、原油、天然ガス等の資源不足が懸念されている。原油価格の上昇に伴って、肥料価格が前年比160%アップという驚異的な結果となっている。北朝鮮、中国などの情勢を注視しながら、迅速に対応することが必要となる。日本の発電における化石燃料の割合は、約70%と世界的にみても異常に高いので、早急に自然エネルギーの利用と原子力などによる発電に関するCO ₂ カーボンの比率を70%にさせるなどの改善が必要である。また、石炭火力発電におけるアンモニア混焼の推進なども必要である。総理大臣の台湾有事に関する発言により、日中関係が急速に悪化し、中国の水産物の輸入停止など、景気悪化に向かいかねない状態も出てきているので、さらに、今後の景気動向に関する注視が必要である。事業活動について、地球温暖化にともなう気候変動の影響を大きく受けている。温暖化に伴う気候変動の対策が必要であるが、その対策については、目に見えて進めているような政策がほとんどなく、洋上風力発電の実施、水素ステーションの構築、燃料電池の積極的な導入、グリーンアンモニアの生産拡大など、カーボンニュートラルの実現に向けた政策の加速化が強く求められている。発電量における自然エネルギーや原子力の割合を高めることが、社会的に必要となってきているので、山口県においても中小企業も参加するかたちの、GX会議の創設が必要となってきている。
			年末が近付き、混雑を避けて早めに正月用品を揃えるためか、正月用餅の売れ行きが好調。ただし、同業他社を見ても、米高騰の部分を価格に転嫁できている業者は少ないようだ。年明けに値上げを実施予定だが、消費者の反応が少し懸念される。
織維工業	外衣・シャツ製造業	防府・山口	状況は特に変わりない。
	帆布製品製造業	宇部・山陽小野田	イベント用テント、ブース関係の受注が増加し、売上も安定してきた。新設工事（テント倉庫）の受注も増加傾向である。採用に関しては、募集をかけても応募がこない状況。
木材・木製品	製材業・木製品製造業	下関	組合員7社の平均値は、売上額前年同月比20%減少。
印刷	印刷業	防府・山口	年賀状の件数が激減し受注も昨年より減少した。1月に持ち越した仕事もあるが、売上は伸び悩んだ。
		下関	年末を迎え、物価対策として政府が推奨している「お米券」は、配布先や詳細についてまだ調整段階で、各自治体の対応もばらばらのようである。印刷業にとってはプレミアム商品券やお米券の新規発行は、全国規模で新たなビジネスチャンスに繋がるものであり、今後の各自治体の動向には注視していく必要がある。現在の印刷物の受注状況は昨年の年末とほぼ同水準で推移しているが、来年3月の年度末に向けて、上記お米券の新規発行など新政権による積極財政対策が、日銀が決定した利上げによる景気減速の懸念をカバーするひとつの起爆剤になることを期待している。

月次景況調査結果特記事項【令和7年12月期】
山口県中小企業団体中央会

大分類	具体的業種	地域	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	県内全域	昨年10月からの最低賃金の引き上げの影響で、仕入価格、原材料費、運賃等のコストアップが予想されるため、販売価格への影響を懸念している。
	生コンクリート製造業	防府・山口	12月も製品の動きが悪く、前年比50%と低迷している。1~3月も依然として低調となる見込み。
	石工品製造業	県内全域	出荷量は、前月比94%、前年同月比90%。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。生コン販売価格は安定している。
	陶磁器・同関連製品製造業	防府・山口	各寺院が納骨堂を建てたことで、墓石の撤去依頼が急増している。これまで加工技術によって石材店は成り立っていたが、撤去作業が中心となると、今後は異業種からの参入が増加するのではないかと懸念している。
一般機器	陶磁器・同関連製品製造業	萩・長門	組合で反省会を実施した。年に二回の萩焼祭りと、協同組合主催の式萩祭に重点を置き話し合いをしてきた。着実に成果は出ているものの、まだまだ課題多くあるため、時代のニーズに沿った改革を進めて邁進していきたい。
	一般産業用機械・装置製造業	周南	11月に続き、周南コンビナート地域の各製造工場では大きな新設案件、定修案件もなく、閑散期が続いている。組合員企業は、県外対応等で凌いでいる状況。
		防府・山口	業況は厳しい状況が続いている。既存受注状況がかなり厳しい中、新規取引を模索するも、県内全体での仕事量が減少しており回復の兆しが見えていない。比較的纏まった設備投資などの案件は、クライアントの中でも先送りの傾向が変わらず、次年度以降の予定へと変更になるケースが複数となり、当面の間は耐える状況が続くと考えている。業界間で受注格差が広がり単価の指値が以前厳しい。人件費・副資材・運送費などのコスト上昇は続くが、需要低迷で価格転嫁は難しく年度末までは厳しい状況が続くと思われる。
		宇部・山陽小野田	先の見えないロシアのウクライナ侵攻、中近東の政情不安。アメリカのトランプ政権が進める関税政策による世界経済混乱、对中国との経済摩擦等不確定要素が多々ある中で、日本経済への影響は想定したほど大きくなく、株式相場も活況を呈している。しかしながら、行き過ぎた円安の影響は各業種に多大な影響を与えており、一部製造業で若干の停滞感があり外国人雇用も控え気味である。一方、介護の人材不足は顕著であり早急な対応が求められる。又、外食、サービス業は人材の確保に苦慮しており、外国人人材への需要が多い。なお、他国に比しての賃金安の対応では、最低賃金見直しは一定の成果があったが、引き続きさらなる見直しが必要と考える。山口県の場合、近隣他県に比しての賃金格差は広がる傾向にあり、見直しの基準の在り方、手法も含め、この解消にも早急に対処する必要がある。今後、安定的人材確保を目指して、従来から交流のあるベトナムのビンズン省に加え、インドネシア中部ジャワ州行政機関、送り出し機関や現地大学との連携を進め、賃金対応のみならず多文化共生社会づくりへの対応による生活環境、文化環境、教育環境、日本語教育等の充実による魅力づくりに取り組む必要がある。
		宇部・山陽小野田	前月と同様に低調な状況が続いている。受注量も減少傾向にある。若手の人材不足や後継者不在の問題に直面している事業者もある。
		下関	特段変化はない。
輸送機器	鉄道車輛・同部品製造業	周南	鉄道車両関係の全体の受注量は減少傾向にあり、2025年度は大幅な受注減、2027年度からは受注増加の見通し。半導体製造装置の部品製造業において、当初の予測より受注量が減少。今後もしばらくは低位に推移するものと思われる。
卸売業	乾物卸売業	防府・山口	12月は新商品の入出庫を行い、倉庫売上に大きく寄与した。期間限定であった為、今後最盛期を迎える海苔の入庫に影響はない。本年度以降も積極的に新商品の受入れに着目しつつ運営を行いたい。
	生鮮・魚介卸売業	下関	鮮魚の入荷種に偏りがあり、需給バランスがやや崩れていた。クリスマス以降は、近海手縄船の切揚げが早まり、前年までの売上を下回った。
	各種商品卸売業	防府・山口	原材料費の高騰が続いているが、価格転嫁できていない状況が続いている。
	各種商品卸売業	防府・山口	暖冬の影響により、冬商品の動きが鈍っている。
	各種商品卸売業	下関	建築業の組合員企業では、住宅着工数の減少、材料費・人件費の高騰は一旦落ちついているものの、戸建に関しては様子見のような状態で停滞傾向にある。市況は、市外・県外の業者が入ってきており、地場業者が押され気味になっている模様。

月次景況調査結果特記事項【令和7年12月期】
山口県中小企業団体中央会

大分類	具体的業種	地域	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
小売業	化粧品小売業	下関	県内の化粧品専門店の売上状況は前年と同等か微減の模様。物価上昇による消費者の買い控え等により、売上が思うように伸びない。年末年始での売り出しや、春のメイク類の予約活動などで今後の来客促進活動を行う。現在、組合では化粧品店専用のスマートレジの共同開発を進めている。
	各種商品小売業	萩・長門	12月の売上は対前年4.8%の増加。12月27日～31日に、例年通り「年末お魚市」として新聞折り込みチラシを配布。朝市やいりこすくいどりなどのイベントも昨年通り実施した。ガソリン価格の下落などがあり、景況感が少し好転しているように思われる。来館客数は対前年5.0%増。客単価も前年並みに推移した。
		下関	12月の供給状況は前年比98.4%、来店者数は前年比98.6%であった。価格上昇が続いているため、本来であれば供給は上がるはずだが厳しい状況が続いている。来店者数も減少傾向。クリスマスケーキは値上がりし、種類を削減した影響で、注文数が減少した。野菜の入荷は安定している。
商店街	岩国市	岩国・柳井	忘年会シーズンに突入し消費が拡大される。物価高騰にあっても、夏頃の買い物よりもまだ良い傾向である。ただし地方都市小売業の需要は確実に減少し、かつパイも少なくなっている。近隣の中央都市に消費は集中するほど、家賃などの営業コストが増加する。ECサイトも売上は上がるものの、価格競争や物流コストが増大し、売上と利益は比例していない。構造的中小零細規模の小売りは儲からない時代となり、大手流通企業だけが業界の一強となり消費基盤は脆弱になっている。国が目指す所得拡大にはなっておらず、仮に増えたとしても貯蓄や投資にまわって、地域経済の活性化にはなっていない。
	周南市	周南	3商店街合同のプレミアム商品券は、これまで順調に店舗での使用があり来客につながっている。問い合わせも多数あり、良い結果になることを期待したい。また、今年度は銀座通りにイルミネーションを装飾し、御幸通りから青空公園へと向かうお客様に目で楽しんでいただき、銀座通りへの回遊を促す動線を構築している。
	山口市	防府・山口	商店街の人通りが減少しており、景気の良い話は聞こえてこない。青果業も売上が減少し、冷凍食品やカット野菜に需要が流れている状況である。
	宇部市	宇部・山陽小野田	12月にも関わらず商店街に人の流れがなく、先々が不安である。
	萩市	萩・長門	小規模事業者応援キャンペーン補助金により「プレミアム商品券」を販売した。各店舗売上のプッシュアップがあり、前年より売上げが増加した模様。
	下関市	下関	12月に入り、年末商戦の活発化や商品券の利用期限が迫っていることもあり、来街者数は若干の増加傾向にある。一方で、年単位の動向で見ると、来街者数自体は年々減少している。
サービス業	理容業	防府・山口	物価や原材料等の高騰により、来店者数が減少している。小規模・零細個人事業者には、大変厳しい経営環境が続いている。
	自動車整備業	県内全域	山口県の令和7年11月の新車新規登録台数は、登録車2,867台で対前年同月比88.0%とマイナス、軽自動車は2,204台で対前年同月比99.5%と昨年を僅かに下回り、全体では92.7%とマイナスが6ヶ月連続と依然厳しい状況が続いている。下期に入り年末を迎える時期に依然回復基調が見えない状況が続く中、12月決算の状況が気になるところである。また、現在も台湾をめぐる発言が様々な方面に影響を及ぼしていると報道されているが、米国との対応も複雑に絡み今後業界への影響が懸念される。車両の価格も上昇傾向にある中、自動車税制等の見直し、次年度の予算審議等が控えており今後どう影響を与えるかが注視される。
	スポーツ・健康教授業	岩国・柳井	スイミング部門の会員数は前年同月比8%弱減少しているものの、売上は10月からの価格改定により増加している。スポーツジム部門の会員数は対前年比12%増。売上もその分好調に推移している。
	普通洗濯業	県内全域	12月の売り上げ増減は事業者によって分かれた。業界では、人手不足から受付お渡し業務のオートメーション化を可能とする機械が注目を浴びている。人材確保にコストがかかるのと、そもそもの人件費も高いことから、同様の動きは今後も増えると予測される。
	飲食業	防府・山口	今年の年末は寒さも厳しくなく、飲食店は多くの来客で賑わった。
	旅館業	防府・山口	前年同月比で、売上高116.2%、宿泊客数106.5%。客層別では、県内・県外・インバウンド・スポーツ大会及び修学旅行など、全てのクラスターで前年同月を上回ることができた。
		萩・長門	12月は施設利用者及び売上高が5%の減少となった。入浴料金の値上げ及び物価の高騰等で観光客の減少が見られる。経費については、依然として続く原油高、物価高騰、消費税等の公共料金が経営を圧迫、赤字経営が継続している。
		下関	稼働率が低下しているため、ビジネスホテル関連では価格を下げて対応している。年末年始の日の並びは良いが、年内の予約の入りが鈍い。

月次景況調査結果特記事項【令和7年12月期】
山口県中小企業団体中央会

大分類	具体的業種	地域	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
建設業	電気工事業	防府・山口	中電への工事申請189件（当支部169件）、前年同月43件（同35件）。太陽光発電への申請65件（前年5件）、オール電化申請62件（前年19件）。LED街路灯への切り替え・新設申請33件（前年2件）であった。アパート50室、町内会の公衆用街路灯が重なり、太陽光およびLEDへの切替え件数が増加した。
	左官工事業	岩国・柳井	工事量が少ない状況が継続している。また、年末年始の休暇期間が長いため、日給制を採用している事業者においては給与補填による負担増が見込まれる。
	管工事業	周南	仕事量は順調に推移している。人員不足の問題は引き続いているが、中でも若手の採用に苦慮している。
	屋根工事業	岩国・柳井	年末は多忙な時期であるが、例年に比べ活気が今一つであった。年明けはさらに厳しい状況になると予想される。
	鉄骨・鉄筋工事業	県内全域	現状はあまり忙しくなく、残業や休日出勤はほぼ無い状態。他社応援や現場仕事で仕事量を確保している。春先の見積もりが多く来年1月～2月の物件が少ない。今後も不透明な状況が続く見込みだが、見積もりは行っているため受注に繋がってほしい。
	一般土木工事業	岩国・柳井	国内では、円安を是正するため近く金利を上げようとする動きがあるが、簡単にはいかないと思われる。
	一般土木工事業	萩・長門	12月の受注高は対前年同月229.0%、今年度の累計は対前年比94.4%
	一般土木工事業	萩・長門	12月末までの長門地区の公共事業発注高は、例年と同等まで回復した。今後の補正予算に期待する。
運輸業	一般貨物自動車運送業	周南	軽油の価格が下がったことについては少し安堵しているが、業界全体としては依然として人手不足・物流の低迷が続いている厳しい状況は変わらない。
	一般貨物自動車運送業	宇部・山陽小野田	年末年始にあたり、一時的に荷動きが活発化している。倉庫保管案件については、引き続き安定した推移を見せてている。一方で、諸コストが軒並み上昇していることから、継続して値上げの交渉を進めている。採用面では、定着率の低さが課題として継続している。
	一般乗用旅客自動車運送業	周南	タクシーチケットの取扱い金額（税込み）は、前年比▲5.6%（令和7年11月1日～令和7年12月20日分 今期29,885千円 前期31,664千円）だった。11月1日～11月30日分は、▲11.0%（今期 16,223千円 前期 18,219千円）。12月1日～12月20日分は、+1.6%（今期 13,662千円 前期 13,444千円）。11月分は大幅に減少した。12月になって少し落ち着いてきたように思える。当組合の取扱いタクシー事業者は、周南市、光市、下松市、防府市の地域。11月分については、周南▲9.3%、下松▲10.1%、光▲4.8%、防府市地区が▲18.4%で、組合員の全域では▲10.6%、地区外（員外）▲14.2%、合計▲11.0%（▲1,997千円）だった。タクシー乗務員は労働条件が厳しい（賃金が少ない）事もあって、慢性的に不足している。年末の繁忙時期、配車予約の要望が多いが、稼働車両が少なく、待機車両の状況が予測できないため、事前予約を断っている。今年、タクシー事業者の廃業が続いたが、多くの事業者が、人件費や諸経費の高騰で事業収益が確保できない状況にあると思われる。人口増加が続く大都市と異なり、人口減少、高齢化が進む地方都市に即した運賃体系や補助制度がなければ、廃業や縮小が進む一方で、地域全体の不況要因となると思われる。また、運賃改定が望まれる。
	港湾運送業	宇部・山陽小野田	12月の取扱高は対前年比若干増加している。依然として人手不足は続いているが、業界全体として、認知度を高める等の対策を進める必要性がある。
その他	介護事業	防府・山口	深刻な人手不足により人件費を上げないと人材の確保が難しくなっている。また、物価上昇による原材料費・エネルギー価格の高騰により収益が悪化している事業所が多い。政府が介護職員に対する処遇改善策を発表したが、事業所としての収益を上げることは難しいと考えており、介護保険の報酬改定を希望する声もある。